

## 《研究課題名》

タウオパチーの神経病理学的研究

## 《研究対象者》

2024年3月31日までに、滋賀医科大学病理学教室で剖検され、アルツハイマー病、進行性核上性麻痺などのタウオパチーあるいは非神経疾患であると診断された方

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の剖検脳を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となるご遺族等におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

## (1) 研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2026年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 理事・副学長 遠山育夫

## (2) 研究の意義、目的について

### 《意義》

異常にリン酸化タウに関連するタンパク質や神経炎症因子を同定することで、これらの分子を標的にした診断治療法の開発につながることを期待されます。

### 《目的》

ヒト剖検脳を用いて、リン酸化タウとRNAタンパクや神経炎症因子の局在について、神経病理学的に明らかにすることを目的にしています。

## (3) 研究の方法について

### 《研究の内容》

アルツハイマー病5例、進行性核上性麻痺などのその他のタウオパチー10例、非神経疾患対照例10例の大脳皮質、海馬、脳幹部、小脳を用います。剖検脳の固定標本からパラフィン切片あるいはクリオスタット標本を作製して、神経病理学的染色を行います(HE染色、鍍銀染色等)。同時に、-アミロイド、タウ、リン酸化タウ、シニクレイン、TDP-43など、神経変性疾患関連蛋白に結合する抗体、RNA関連タンパクに対する抗体、神経炎症因子に対する抗体を用いて、それらの局在や発現の違いを検討します。一部の症例は、凍結標本を用いて、これらの物質に対するウエスタンブロット法を行います。これらの方法を用いて、どのようなRNAタンパクや神経炎症因子が、リン酸化タウと関連しているのかを解析します。

オプアウト

## 《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

剖検脳組織

## 《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

### （４）個人情報等の取扱いについて

本研究を実施する際には、あなたの試料・情報から、あなたを特定できる情報（氏名、生年月日、住所等）を除き、代わりに本研究用の ID を付けることで、その試料・情報が誰のものであるか分からない状態にします。ただし、必要な場合に特定の個人を識別できるように、あなたと ID を結び付けることができるような加工をした情報を残します。尚、加工された情報は、施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

### （５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

### （６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

### （７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

### （８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 創発的研究センター 加藤智子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2326

メールアドレス：tkato@belle.shiga-med.ac.jp